

での各指標の変化を検討したが、強心剤、利尿剤投与により各指標は正常値に近づく傾向を示しており、心機能の改善が得られていると考えられた。この中で classic ICT と IRT は他の指標とは逆により異常値を示す方向に変化していたが、これは異常に高かった左房圧がかなり低下し僧帽弁閉鎖が早くなり、開放が遅くなったためと予想される。

以上のごとく、精度上問題のある非観血的方法から得られる指標も、できるだけ多くの指標を検討することにより、個々のDMP患児の心機能の障害程度をかなり正確に知ることができると考えられた。

38 進行性筋ジストロフィー症心臓の病理学的検索

国立療養所川棚病院

奥 保彦 森 一毅
迫 龍二 中 沢 良夫
所 沢 剛 (秋田大学病理)

〔はじめに〕

進行性筋ジストロフィー症 (以下DMPと略す) では、骨格筋のみならず心筋にも特異な変化を生じ、心不全で死亡したり、伝導系の異常を呈する例がある。これらの異常、特に刺激伝導系についての詳細な病理学的検索は、現在まで報告が少い。我々は、今回6例のDMPの剖検心で刺激伝導系を含めた、病理学的検索を行ったので報告する。

〔対象及び方法〕

検索したDMP 6例は、国立川棚病院にて死亡した症例で、5例の Duchenne 型と1例の肢帯型であった。年齢は Duchenne 型が10才より19才 (平均 14.4 才) で、肢帯型は、38才であり死亡原因は、3例が急死、肺炎及び心不全が2例ずつで、他の1例は急性腹症様の症状よりショック状態となり死亡した。生前の胸部レ線での心胸郭比は、63%から41%までで平均 49.4 %であった。心電図は洞性頻脈があり (平均 102 / 分)、1例で左軸偏位の所見があったが、洞房及び房室ブロックを示す症例は認めなかった。

病理学的検索は、Lev の方法により50 μ 間隔の段階標本を作製し、刺激伝導系は検討した。

〔結 果〕

洞結節は、4例について検索したが、1例に、洞結節動脈の内膜肥厚を認めたが、房室結節及

び His 束にかけても 2 例に同様の内膜肥厚を呈する例があった。又同部に脂肪浸潤と弾性線維化、空胞変性、脂肪浸潤が、その主たる病変であり、これらの変化は、心外膜側に最も強く、中層から心内膜側にまで拡がる例もあった。冠動脈と心筋変性部との間に関連はみられなかった。

〔考 案〕

洞結節、房室結節及び His 束にかけては、Jamus の報告した様な内膜肥厚を主体とする細動脈の変化が認められたが、これに起因すると思われる高度の病変は無かった。これは、今回の検索症例の心電図所見が軽度であったためとも考えられるが、刺激伝導系には、線維化や空胞変性を呈する症例もあり、DMP 患者では刺激伝導系にも一般心筋と同様の変性を生じる可能性があり、心不全等のポンプ機能の低下による死亡と共に、刺激伝導系の病変による不整脈での死亡も充分考えられ、今後患者治療上この点への注意も必要と思われた。

39. 進行性筋ジストロフィー症の心機能

国立療養所川棚病院

奥 保 彦 迫 龍 二
森 一 毅 中 沢 良 夫

〔はじめに〕

進行性筋ジストロフィー症（以下 DMP と略す）の内 Duchenne 型は、「骨格筋と共に心筋にも変性を伴い、心不全で死亡する例が多い事が知られているが、今回我々は、心エコー図を用いて、非観血的に心機能を検討した。

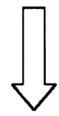
〔対象及び方法〕

対象は、国立療養所川棚病院に入院中の Duchenne 型 DMP 患者の中で、明瞭な心エコー図の記録できた 46 名で、これらを厚生省分類 4 度まで（Group-I）と 5 度以上（Group-II）とに分けたが、各群は、8 例と 38 例であった。一方健常者 61 例（7 才から 24 才）を正常対象群とした。正常群と DMP 群との間には、年齢、安静時心拍数に有意差はなかった。

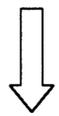
心エコー図は、東芝製ソノカーディオグラフ SSL-51U により、ペーパースピード毎秒 50 ないし 100 mm で記録した。心エコー図よりの各計測値は、5 心拍の平均値を用いた。

〔結 果〕

1. 心内腔径



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

進行性筋ジストロフィー症(以下 DMP と略す)では、骨格筋のみならず心筋にも特異な変化を生じ、心不全で死亡したり、伝導系の異常を呈する例がある。これらの異常、特に刺激伝導系についての詳細な病理学的検索は、現在まで報告が少い。我々は、今回 6 例の DMP の剖検心で刺激伝導系を含めた、病理学的検索を行ったので報告する。